

施策マネジメントシート

作成日 平成 30 年 8 月 31 日

施策	No. 04	人々の交流を盛んにするしくみづくり	
施策 主管課	企画課	氏名	水谷和彦
施策 関係課	農林振興課、観光商工課、生涯学習課、御坂・一宮・八代・境川・春日居、芦川支所		

1. 現状把握 Plan→Do

(1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇市民 ◇友好都市住民 ◇首都圏住民	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位) a 笛吹市の人口<4月1日現在> 人 b 友好都市の人口(国外を除く)<見込み値は一定数値> 人 c 首都圏の住民基本台帳人口(年度当初)<見込み値は前年増減率> 人
② 意図 (対象をどういう状態に変わるのか) ◇市の一体感が醸成する。 ◇国際化への市民の意識が醸成される。 ◇交流人口が増加する。 ◇定住人口が増加する。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位) d 友好都市交流事業への参加市民数 人 e 芦川おごっそう家来客数 人 f g h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇市の事業で直接交流した人の数を指標として設定する。 ◇交流拠点の一つである芦川おごっそう家(農産物直売所)の来客者数で判断する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇交流事業への参加市民数は企画課把握。 ◇芦川農産物直売所来客者数は、農林振興課把握。

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、決算	29年度 最終目標
対象 指標	a 笛吹市の人口<4月1日現在>	人	見込み値 72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000
			実績値 72,192	72,145	71,724	71,132	70,749	70,599	69,861
	b 友好都市の人口(国外を除く) <見込み値は一定数値>	人	見込み値 181,000	181,000	181,000	181,000	181,000	181,000	181,000
			実績値 181,470	179,380	178,876	176,900	173,407	172,946	171,291
対象 指標	c 首都圏の住民基本台帳人口(年度当初) <見込み値は前年増減率>	人	見込み値 42,470,000	42,480,000	42,560,000	42,720,000	42,880,000	43,000,000	43,000,000
			実績値 42,700,093	42,631,000	42,714,887	42,880,724	42,734,604	43,094,333	43,310,783
	d 友好都市交流事業への参加 市民数	人	成り行き値 285	280	500	500	500	500	500
			目標値 300	520	600	600	650	650	700
			実績値 516	605	594	812	743	625	714
成果 指標	e 芦川おごっそう家来客数	人	成り行き値 69,500	70,000	71,000	71,000	72,000	72,000	73,000
			目標値 70,000	75,000	76,000	77,000	78,000	79,000	80,000
			実績値 74,816	76,473	64,096	63,837	60,915	60,586	45,919
成果 指標	f		成り行き値						
			目標値						
			実績値						
成果 指標	g		成り行き値						
			目標値						
			実績値						
成果 指標	h		成り行き値						
			目標値						
			実績値						
施策コスト	事務事業数	本	25	25	17	20	32	24	26
	事業費 (A)	千円	136,539	67,143	33,807	22,640	82,851	43,397	97,258
施策に係る 事務事業 コストの合計	うち一般財源 (A')	千円	29,776	10,566	15,883	9,712	22,070	27,296	30,508
	人件費 (B)	千円	60,046	51,802	29,796	30,720	53,710	60,261	81,199
	トータルコスト (A+B) (C)	千円	196,585	118,945	63,603	53,360	136,561	103,658	178,457
	うち一財 (A'+B) (C')	千円	89,822	62,368	45,679	40,432	75,780	87,557	111,707

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

◇後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。
 ◇友好都市交流事業参加市民数:成り行き値は、H23年度実績値を基に設定。目標値は、H23年度実績を基にH25年度交流組織の見直しを図り、交流事業の実施を想定し設定。(友好都市との交流参加者のみ)
 ◇芦川おごっそう家(農産物直売所)来客者数:成り行き値はH22年度実績値(69,342)から微増とし、目標値は、H23年度実績値を基にH25年度か毎年1,000人増と設定。

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇市民は、イベントや友好都市交流事業に参加する。 ◇市民及び団体は、友好都市住民と自主的な交流を続ける。 ◇国際交流団体は、国際交流の催しを開催する。 ◇スポーツ少年団は、友好都市とのスポーツ大会を継続開催する。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇市は、友好都市交流事業を実施する。イベントを開催する。イベントや友好都市交流の情報を発信する。 ◇市は、国際交流組織活動を支援する。
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇外国人観光客が減少傾向にある。
◇H26年度からミズベリング事業を開始した。
◇H28年度から中国天津市との教育交流が始まった。
◇H28年度、タイ王国とオリンピックキャンプ地誘致等に関する協定を結んだ。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇市民の意見…旧町村の交流事業に対して両論(①地域ごとに実施。②笛吹市として一本化。)がある。
◇議会・監査委員…友好都市交流の予算に格差があると指摘。

2. H29年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標値より高い実績値だった ○ 目標値どおりの実績値だった ● 目標値より低い実績値だった 	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇友好都市交流事業への参加市民数は、目標値700人に対し、実績値は714人であった。(友好都市交流への市民の意識醸成、交流事業参画への取組が進んでおらず、参加者の増加につながらない状況である。)</p> <p>◇芦川農産物直売所来客数は、目標値79,000人に対し、実績値は45,919人であった。(H26年をピークに観光入込客数が減少していることが考えられる。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果がかなり向上した ○ 成果がどちらかと言えば向上した ○ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) ● 成果がどちらかと言えば低下した ○ 成果がかなり低下した 	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇友好都市交流事業への参加市民数は、H27年度743人、H28年625人、H29年度714人であった。(友好都市交流への市民の意識醸成、交流事業参画への取組が進んでおらず、参加者の増加につながらない状況である。)</p> <p>◇芦川農産物直売所来客数は、H27年度61,000人、H28年度60,586人、H29年度45,919人であった。(H26年をピークに観光入込客数が減少していることが考えられる。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他自治体と比べてかなり高い成果水準である ○ 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である ● 他自治体と比べてほぼ同水準である ○ 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である ○ 他自治体と比べてかなり低い成果水準である <p>比較自治体名⇒ <input type="text" value="南アルプス市、山梨市、甲州市"/></p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇友好都市の数は、本市は国外3国内5、南ア市は国外4国内4、山梨市は国外2、甲州市は国外2国内3と他市と同程度であった。</p> <p>◇他自治体には、自治体の施設としての農産物直売所が無いため比較は行っていない。</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 笛吹市の人口	(単位)	27 年度	28 年度	29 年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目の a)	人	70,749	70,599	69,861	◇境川観光交流センター運営事業が新規に事業化されたため、事業費が大幅に増加している。 ◇目標より低い実績値だった上、コストが増加したため、効率性は低下したと判断できる。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A / D)	円	1,171	615	1,392	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B / D)	円	759	854	1,162	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C / D)	円	1,930	1,468	2,554	

3.最終的な施策の総括 Action

(1)達成状況の分析(理由と改善点)

◇人々の交流を盛んにするしくみと共に人々の交流の場も不可欠である。
◇国際友好都市との交流は、現状の海外3都市との交流を基本とし、今後も市民レベルでの交流を促進していくための組織作りに取り組む必要がある。
◇国内地域間交流については、都市間協定などの取り交わしがなく旧町村(地域)で交流を行っており、市として地域間交流が生かされていない。それぞれの交流経緯等を生かしながら、市としての交流テーマを設定して地域間交流を生かす必要がある。そのためには市役所の組織体制、市民との協働事業の取組みの促進などを見直していくことが求められる。
◇地域間交流を継続していくうえで、市民レベルでの交流を促していく必要があるが、参加の確保のための自発性を促す支援が不可欠である。
◇芦川農産物直売所については、交流人口目標を下回っているが、さらなる交流人口増に向け、地域内外の関連施設との連携が必要である。